

令和元年度の主な取り組み

市がめざす将来の都市像「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」の実現に向けてテーマを掲げ、取り組みました。ここでは主なものを紹介します。

もっと便利に魅力的に

■狭い道などを車道に 875万4千円

車が入ることができない細い市道を車が通れるように、新たに5路線を「車みち」として整備しました。

■稲佐山山頂展望台へ スロープカーを整備 7億2,759万3千円

稲佐山山頂展望台を訪れる観光客などの増加に対応するため、世界的な工業デザイナーである奥山清行氏がデザインした稲佐山スロープカーが1月31日に運行開始しました。(①)

■恐竜博物館の建設 4億9,697万4千円

他では見られない長崎市産の恐竜をメインテーマとし、「はらかな過去の長崎」を探求することができる恐竜博物館の建築設計、展示設計を行いました。来年10月の開館を目指して着々と準備を進めています。(②)

子どもたちの未来

■小・中学校にエアコンを設置 27億946万4千円

市立小中学校全ての普通教室や理科室、音楽室などの一部の特別教室へ空調を設置し、供用を開始しています。

■学校給食センターの建設 1,923万2千円

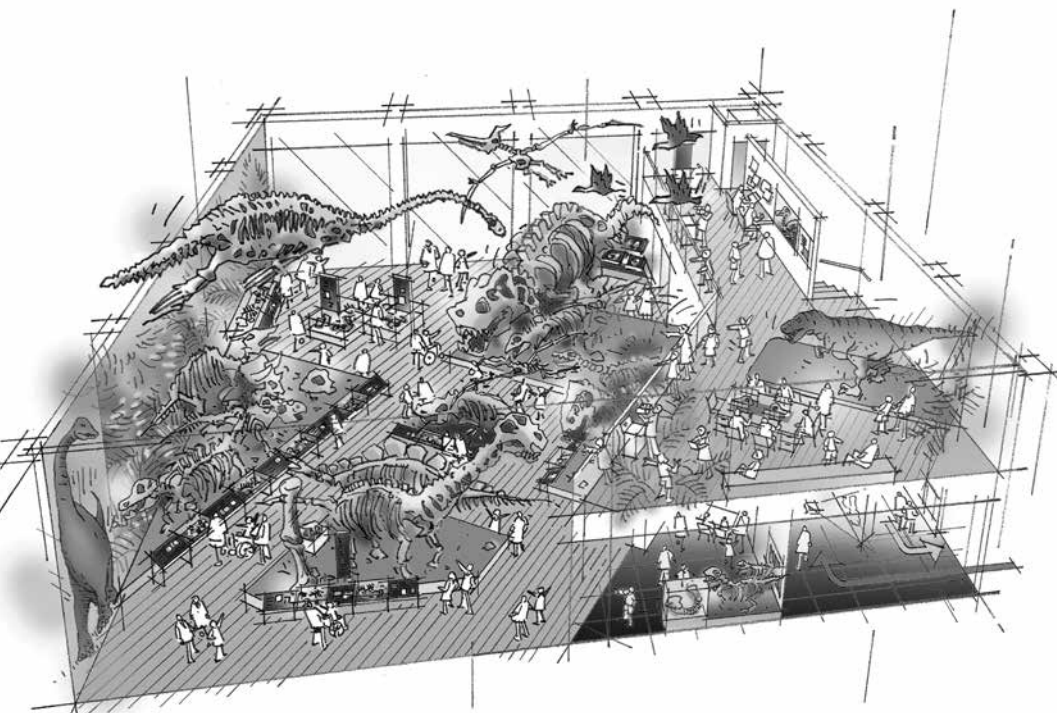
より安全で安心な学校給食を提供するため、学校給食センターを整備します。1カ所目となる(仮称)長崎市三重学校給食センターの建設や運営などを一体的に民間事業者へ委ねる契約を締結し、令和4年1月からの供用開始に向けて整備を進めています。

■放課後児童クラブの施設整備を支援 8,692万2千円

放課後児童クラブを運営する法人へ施設整備の補助金を交付し、2校区の施設が新しく整備されました。

②来年10月開館予定の長崎市恐竜博物館

①稲佐山スロープカー



環境との調和

■地域でエネルギーを作り出すための事業体設立 1,750万円

再生可能エネルギーの地産地消によるCO2削減と新たな脱炭素事業を創出するため、地域エネルギー事業体「株式会社ながさきサステナエナジー」を設立し、今年度からの電力供給開始を予定しています。

地域と人を元気に

■地域コミュニティの推進 2,931万3千円

自治会をはじめ地域の団体などが連携してまちづくりに取り組む「地域コミュニティ連絡協議会」の設立を支援し、今年11月1日現在、18地区で連絡協議会が活動しています。

■地域に密着したもよおし 1,722万5千円

地域の活性化・一体感の醸成をキーワードに、地域行事の開催を支援する補助金交付や、地域のつながりづくりのための新しいイベントの開催など、さまざまな取り組みを行いました。

障害者福祉の充実

■手話の普及・啓発 53万円

中学1年生を対象に22校へ手話通訳者とうろう者を派遣し、生徒が手話に触れる機会の場をつくり、手話に対する理解が進みました。(5)

長崎ならではの交流

■ラグビー・スコットランド 代表との交流 3,160万2千円

大会組織委員会が求める施設整備を実施し、スコットランド代表チームのキャンプの受け入れを円滑に行うことができました。また、公開練習やラグビー教室、学校訪問などを通じて、市民との交流を深めることができました。(3)

移住・定住の促進

■移住相談窓口を開設 2,123万円

移住相談窓口「ながさき移住ウェルカムプラザ」を開設し、移住希望者からの「住まい」「仕事」「子育て」などの相談に対応するなどきめ細やかな支援を行ったことで、目標200人を上回る292人のかたが移住してきました。(4)

安全・安心な暮らし

■防災行政無線のデジタル化 20億1,628万3千円

送受信設備や屋外スピーカー設備などを更新しました。また、屋内でも無線放送と同じ内容を聞くことができる戸別受信機については、無償貸与の対象拡大と有償譲渡の制度創設を行い、機器を配布しました。

③ラグビースコットランド代表チームとの交流会



④移住相談の様子(長崎駅前)

⑤中学校での手話講座の様子

